



高崎市

TAKASAKI CITY

認知症の人を地域で見守り支える仕組み作り

～オレンジサポーターによる見守り活動～



群馬県高崎市福祉部長寿社会課地域包括支援担当
田中 亜紀

Copyright (c) Takasaki City All rights Reserved.

高崎市の概況①



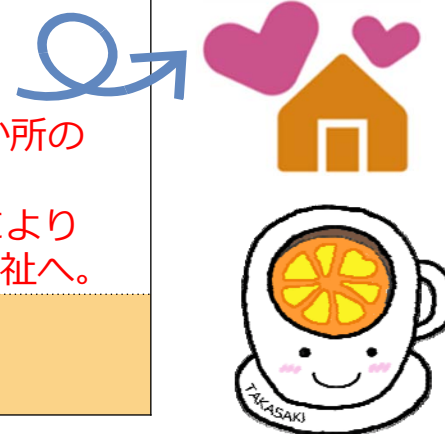
- 関東平野の北端に位置し、古くから交通の要衝である商工業都市
- 面積は約460km²
- 平成18年1月23日に倉渕村・箕郷町・群馬町・新町と、同年10月1日に榛名町と、平成21年6月1日に吉井町と合併
- 平成23年4月1日に中核市に移行。



高崎市の概況②

日常生活圏域	46圏域
地域包括支援センター	29か所 ・直営 1か所（基幹型センター） ・委託 28か所（地域型センター） ※H26年度までは直営9か所。H27年度より26か所の旧在宅介護支援センター受託法人へ委託。 さらに、H29年度から高齢者人口の増加等により2か所増設。「待つ」福祉から「出向く」福祉へ。
認知症地域支援推進員	32名 （基幹型4名、地域型28名） 委託包括 1か所に各1名配置

高齢者あんしんセンター
※地域型センターの愛称



	高崎市全体	旧高崎	榛名	倉渕	箕郷	群馬	新町	吉井
0-14	49,068	32,640	2,138	242	2,865	6,844	1,523	2,816
15-64	220,410	149,678	11,321	1,772	11,996	24,827	6,951	13,865
65歳以上	100,337	65,896	6,508	1,582	5,625	9,802	3,539	7,385
75歳以上	48,622	32,268	3,204	874	2,502	4,391	1,816	3,567
全人口	369,815	248,214	19,967	3,596	20,486	41,473	12,013	24,066
高齢化率	27.1%	26.5%	32.6%	44.0%	27.5%	23.6%	29.5%	30.7%
後期高齢化率	13.1%	13.0%	16.0%	24.3%	12.2%	10.6%	15.1%	14.8%

※H29.4.30現在(外国人含まない)

高崎市認知症施策推進計画

認知症施策推進計画



高崎市が目指している姿

「認知症になってもいつまでも尊厳を持って暮らせる高崎市」

- 1 認知機能低下の予防
- 2 早期診断・早期対応の体制強化
- 3 地域による支援体制の充実

具体的な取組み

- I 認知症ケアパスの普及
- II 早期診断・早期対応の強化
- III 地域での生活を支える医療サービスの構築
- IV 地域での生活を支える介護サービスの構築
- V 地域での日常生活・家族支援の強化**
- VI 若年性認知症施策の強化

V – 取り組み3
地域で認知症の人を
支える活動の支援

認知症の人を見守る取り組み①

GPS機器を使用した見守り

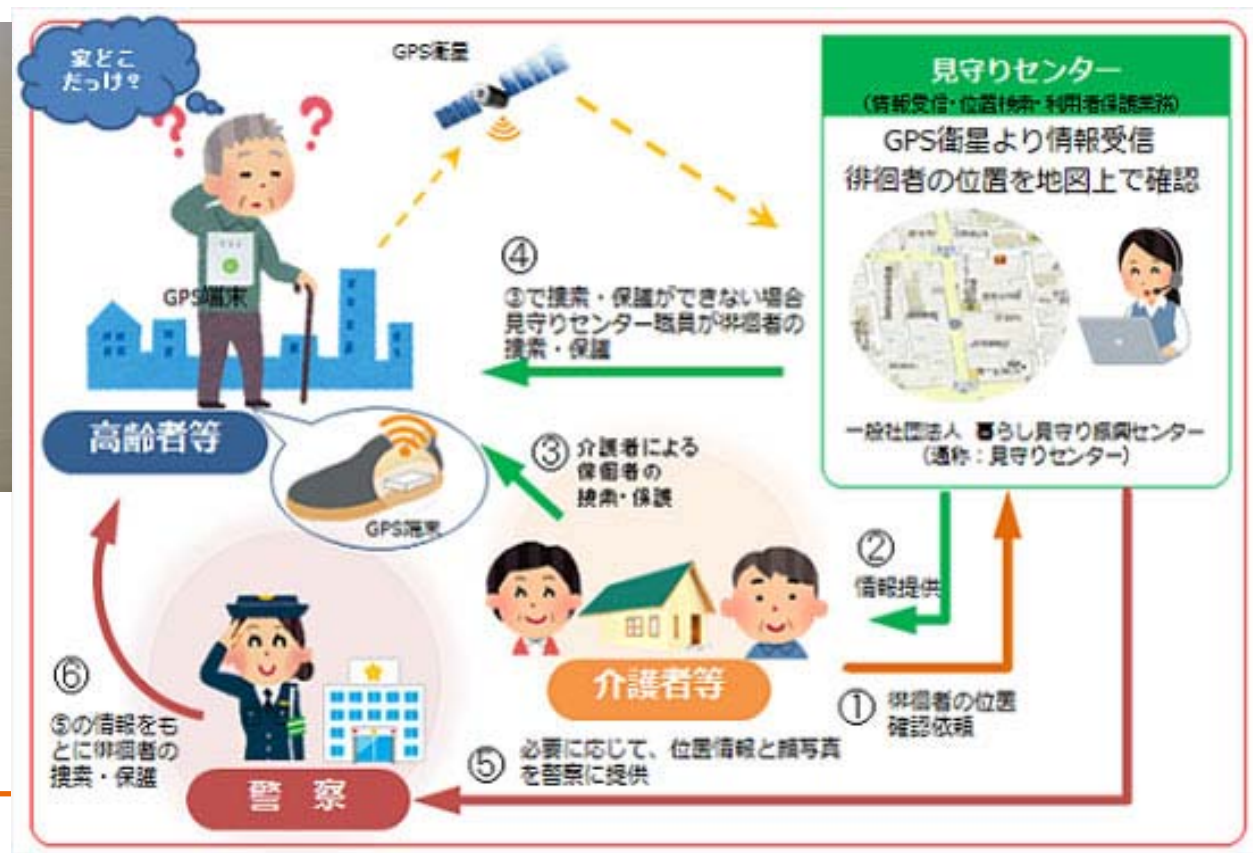
「はいかい高齢者救援システム」

平成27年10月開始



端末サイズ

縦44mm×横37mm×厚さ12mm
重さ30g



ポイント!

- ・ 本人・家族等の負担軽減：GPS機器の貸出から捜索・保護までを無償化。見守りセンターを核とした救援の仕組み
- ・ 「認知症高齢者の徘徊対策に関する協定書」を市長と高崎警察署長との間で締結

認知症の人を見守る取り組み②

オレンジサポーターによる見守り

平成24年7月開始

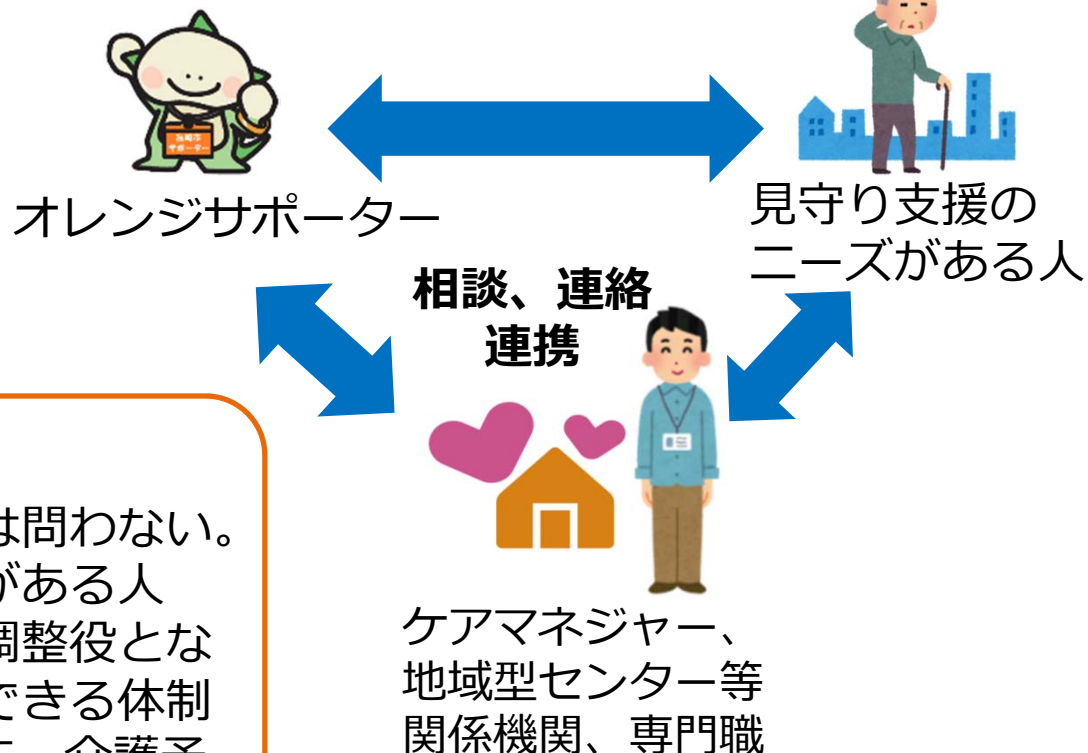
効果

- ・ 早い段階で変化に気づく
- ・ 必要な情報を提供
- ・ 孤独感を和らげ安心へ
- ・ 困りごとに対処、専門職につなぐ
- ・ 悪質な業者の接近を防止

ポイント!

- ・ 対象者：認知症の診断の有無は問わない。
見守り支援のニーズがある人
- ・ 認知症地域支援推進員が連絡調整役となりサポーターが安心して活動できる体制
- ・ サポーターの“得意”を活かして、介護予防（社会参加、生きがいや役割の創出）

定期的な訪問や声かけにより安否確認、交流、話し相手など簡単な支援



資料『住民主体の生活支援サービスマニュアル2 身近な地域での見守り支援活動』を参考に作成

認知症サポーターとオレンジサポーターの養成

オレンジサポーターとは？

認知症サポーター養成講座を終了し、地域で活動する意思のある人で、認知症サポーターフォローアップ研修を受講した人

サポーター名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	これまでの養成者数
認知症サポーター	2,634	1,447	1,628	2,011	1,500	1,556	25,518
オレンジサポーター	308	0	108	0	0	0	416

平成27年度に活動の見直しを実施



平成29年4月時点での登録者数 **225人**



オレンジサポーターの活動の見直し

以前の活動

認知症高齢者宅の玄関先までの見守りや、所在不明者のメールを受けての町内巡回など、活動内容が限られていた。

高崎市
安心ほっとメール
「見守り情報」

その結果…

- ・ 支援をした事例は少数のみ
- ・ サポーターは地域で活動する意思と意欲があるのに、活躍できる場が少ない
- ・ 玄関先での見守りのみで、その他のニーズがあっても対応できない



見直し後

本人・家族の要望に寄り添った、より柔軟で、個別的な見守り活動に見直し、認知症に関する知識の普及啓発にも取り組むなど、活動内容を拡充。

- ・ 改めて活動継続の意向調査を実施、小学校区をもとに15ブロックに分け組織化。
- ・ 地域型センターの認知症地域推進員が連携調整役になって、情報を共有しながら地域の実情に合わせた活動ができるようにした。



オレンジサポーターの組織化

- ・ オレンジサポーターは、「高崎市地域づくり・支え合い体制推進ネットワーク協議会」の中の「認知症支援推進部会」に所属する。
- ・ 「認知症支援推進部会」はオレンジサポーターで構成され、認知症の人を支援するための活動内容と情報の共有を図る。

高崎市地域づくり・支え合い体制推進ネットワーク協議会

介護予防推進部会

個人や、地域での介護予防の取り組みを促進する活動
(介護予防サポーター)

認知症支援推進部会

地域での認知症の理解を深める活動や、認知症の人やその家族を支援する活動
(オレンジサポーター)

地域支え合い推進部会

暮らしに必要な生活支援等の体制を整えていく活動
(地域支え合いサポーター)

運営会議 (部会長1名、副部会長2名)

ブロック会議
(リーダー、サブリーダー)

ブロック会議
(リーダー、サブリーダー)

ブロック会議
(リーダー、サブリーダー)

15ブロック・・・



オレンジサポーターの組織図

認知症支援推進部会

地域での認知症の理解を深める活動や、認知症の人やその家族を支援する活動

「運営会議」

- ・ 部会長1名、副部会長2名をおく（各ブロックから選出されたリーダーの中から決める）
- ・ 部会の活動・運営に関することを検討する

運営会議（部会長1名、副部会長2名）

ブロック会議
(リーダー、サブリーダー)

ブロック会議
(リーダー、サブリーダー)

ブロック会議
(リーダー、サブリーダー)

「ブロック会議」

- ・ 小学校区をもとに、15のブロック分け
- ・ 各ブロックで、リーダー1名、サブリーダー1名以上を決める
- ・ 各ブロックのオレンジサポーターが集まり、運営会議の検討結果などを共有したり、ブロックの活動について検討する

「連携会議」

地域型センターの認知症地域支援推進員が開催



オレンジサポーターの活動

活動	具体的な取り組み内容
<p data-bbox="264 386 696 566">1. 認知症に関する知識の普及・啓発</p> 	<p data-bbox="779 386 1928 491">認知症サポーター養成講座において、開催時の周知活動や当日の受付、寸劇等の運営を支援します。</p> <p data-bbox="779 560 1951 608">★サポーターさん自身も楽しみながら活動しています。</p> 
<p data-bbox="264 1086 696 1203">2. 認知症高齢者の見守り活動</p>	<p data-bbox="779 1086 1570 1267">認知症地域支援推進員と協働し、地域で暮らす認知症の方の見守り訪問等を行います。</p> 

活動

具体的な取り組み内容




3. 認知症に対応した地域のつどいの場の設置や運営の支援



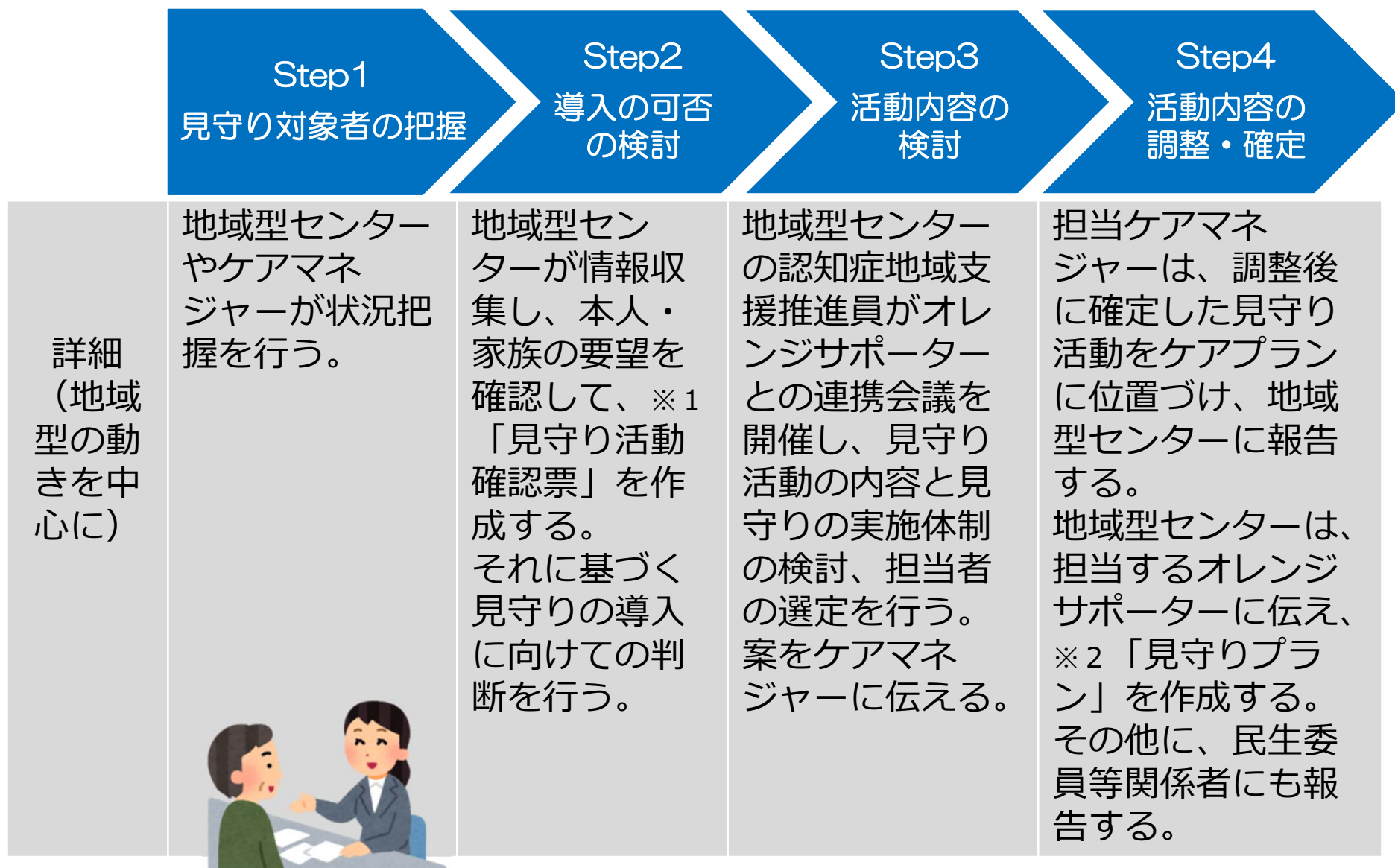
地域のつどいの場において運営者のサポートや活動の支援、利用者の見守りや傾聴、声掛け等を行います。利用者の趣味活動や好きなこと等を一緒に行うなど生きがい活動を支援します。

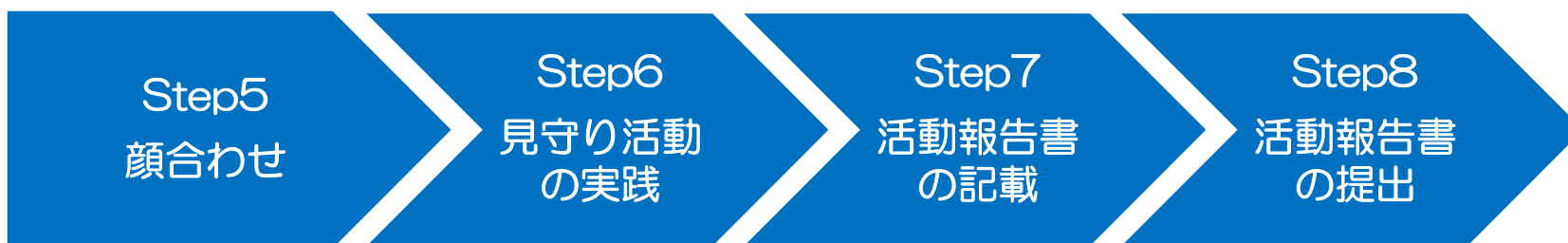
★同じ地域で暮らしてきた住民・仲間だからこそできる話や、わかりあえる話があります。また、声をかけ合うことで生まれる安心感もあります。



活動	具体的な取り組み内容
<p>4. 市及び高崎市認知症地域支援推進員が行う事業への協力</p>	<p>市及び認知症地域支援推進員、地域型センターと連携し、協力して事業を行います。</p> 
<p>5. オレンジサポーターの養成研修における研修生の実習指導</p> 	<p>認知症サポーター養成講座を受講し、地域でオレンジサポーターとして活動したいと希望している人に対して、研修の一環として現場実習をする予定です。実習では、活動しているサポーターが、新サポーターと一緒につどいの場等に行き、現場の様子を伝える役割を担います。</p>
<p>6. その他、高崎市認知症施策の推進事業への協力</p> 	<p>市が開催する研修等を通じて、地域で活動するために必要な知識や技術の習得に努め、認知症施策の推進事業への協力を行います。</p>

認知症高齢者の見守り活動





<p>詳細 (地域 型の動 きを中 心に)</p>	<p>地域型センターがオレンジサポーターとともに訪問、またはサービス担当者会議に同席し、本人・家族との顔合わせを行う。</p>	<p>地域型センターが作成した※2「見守りプラン」に基づき、本人・家族の要望に寄り添った、より柔軟で、個別的な見守り活動を行う。</p>	<p>オレンジサポーターは、月ごとの活動回数を報告書に記載しておく。訪問活動時に気になったこと・いつもと違う様子が見られたときは、その都度地域型センターに連絡する。</p>	<p>活動報告書は、年度末に地域型センターへ提出する。</p>
---	---	--	--	---------------------------------



見守り活動確認票（※1）

地域型センターが情報収集し、本人・家族の要望を確認して作成します。これに基づき、オレンジサポーターの活動内容・体制について検討します。

主な項目

- 緊急時の家族等の連絡先
- 本人の状況
（見守り活動が必要であると判断した状況）
- 本人・家族が希望する見守り活動の内容
（オレンジサポーターに希望する内容と希望しない内容）

高崎市オレンジサポーター見守り活動確認票（記載例）

記入日	28年 3月 15日		記入者氏名	群馬 高子		
対象者	フリガナ	タカサキ ハナコ	生年月日 年齢	明治・大正・昭和 10年 10月 10日 (80) 歳	性別 男・ <input checked="" type="checkbox"/> 女	
	氏名	高崎 花子				
	住所 連絡先	〒370- 高崎市高松町 35-1 電話番号 (027) 321-1319				
家族等の 連絡先	緊急 連絡先 ①	フリガナ	タカサキ ジロウ	続柄	二男	
		氏名	高崎 次郎			
	住所 連絡先	〒 - 高崎市〇〇町 1234 電話番号：(090) 111 -2222				
		電話番号：() -				
	緊急 連絡先 ②	フリガナ		続柄		
		氏名				
住所 連絡先	〒 - 電話番号：() -					
	電話番号：() -					
緊急 連絡先 ③	フリガナ		続柄			
	氏名					
住所 連絡先	〒 - 電話番号：() -					
	電話番号：() -					
本人の状況 （見守り活動が必要 だと判断した状況）		独居で生活しているが、半年前から物忘れが目立ち始め、毎月参加していたサロンも休みがち。ゴミ出しの日も忘れることが多くなり、出し忘れたゴミが台所にそのままになっている。長男は県外在住。二男が市内に住んでいるが、独身で仕事が忙しく月に1~2回程度しか訪問できない。買い物や調理、洗濯などは一人で行え、独居生活を継続することは可能な状況ではあるが、一日中一人で過ごすことが多いため、定期的な声かけ、見守り及び外出の機会を増やす支援が必要である。				
本人・家族が希望する 見守り活動の内容		（希望しない内容がある場合には、併せて記載してください。） 【本人】一日中一人で過ごしているため、話し相手になって欲しい。趣味の編み物を一緒にしたい。サロンや認知症カフェなど、集いの場所に参加したい。でも、一人では参加することが難しくなってきたため、一緒に参加してもらいたい。 ゴミ出しの日を忘れることが多くなった。ゴミ出しの日に声をかけてもらいたい。 【家族】仕事が忙しくなかなか訪問できない。地域のオレンジサポーターさんの力を借り、今の生活を続けて欲しい。				

平成28年度～高齢者あんしんセンター聞き取り用

見守りプラン（※2）

地域型センターが作成し、オレンジサポーターと共有します。

主な項目

○担当のオレンジサポーター氏名

○見守り活動の内容

曜日

時間帯（午前または午後）

内容

○同意欄

見守りプラン（記載例）



プラン作成日	28年 4月 1日		
フリガナ	タカサキ ハナコ	住所 連絡先	〒370-3501 高崎市 高松町 35-1
氏名	高崎 花子様		電話番号：(027) 321-1319
見守り開始日	28年 4月 8日（金）		
担当の オレンジ サポーター	長寿 太郎（月・水） 安心 咲子（水・金）		高齢 福美（月・金）
見守り活動の 内容	曜日	時間帯	内容
	月	午前・ <u>午後</u>	・話し相手 ・第1月曜日は地区のサロンへ一緒に同行する
	水	<u>午前</u> ・午後	・話し相手 ・ゴミ出しの確認
	金	午前・ <u>午後</u>	・話し相手 ・趣味の編み物を一緒にする（花子さんに教えてもらう） ・第3金曜日は認知症カフェへ一緒に参加する

上記のプランに基づき、高崎市オレンジサポーターに見守りを依頼します。
また、高齢者あんしんセンターが、利用者および家族等の個人情報について、見守りの実施に必要な範囲で、担当するオレンジサポーター、担当民生委員、居宅介護支援事業者その他関係する者と情報を共有することに同意します。

平成 28年 4月 1日

氏名（自署） 高崎 花子

本人の署名が難しい場合の代筆者（ご家族等）

氏名 高崎 次郎（続柄：二男）

問い合わせ先・連絡先
高崎市高齢者あんしんセンター（〇〇〇〇）
電話：（ 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇 ）
担当者：（〇〇）

見守り活動の実際①



きっかけ



地域型センター
(高齢者あんしんセンター)
地域の実態把握訪問
で出会い、勧めた。



医療機関
脱水で入院。
今後が心配。



ケアマネジャー
一人でいると食生活
も偏る。人の目が届
くようにしたい。



民生委員
サロンの日を間違え
たり、季節感がない
服装で心配。

家族の声



- ・よく来ていた友人が来られなくなつたので。
- ・デイサービスを利用しているけれど、家で一人の時間も長いから心配。
- ・生活に楽しみを持ってもらいたい。

本人の声



- ・夫が亡くなってから出かける気になれない。
- ・デイサービスには行きたくない。人が大勢いるところは苦手。

見守り活動の実際②



活動の内容

- ・おしゃべりを楽しむ
- ・服装を気にかける
- ・天気・体調が良いとき散歩に同行する
- ・水分、食事がとれているか声をかける



介護サービスを使っても
使っていなくても
認知症の診断を受けていても
いなくても
地域の仲間とつながろう！



家族の声

- ・よく話を聞いてくれるし、本人も楽しそうで嬉しい。
- ・人が来てくれるだけで安心。



サポーターの声

- ・本人について：症状が落ち着いた気がする。笑顔が出てきて、表情が明るくなった。
- ・活動について：相手が女性の場合は、女性サポーターの訪問が良いようだ。認知症地域支援推進員が調整してくれて、顔合わせをしたので安心。みんなで協力して見守っている。他の曜日にも散歩のついでに寄って声かけしてます！



課題と今後の取り組みの方向性

① オレンジサポーターの見守り活動についての理解

認知症の人に何か特別な対応・特別なことをしなければならないという誤解活動が柔軟になったゆえに、「何をどこまでしたらよいのかわからない」

➔ **見守り活動における共通理解、イメージの共有**
“本人・家族の視点”という考え方

② オレンジサポーターの不足・地域による偏り

地域（ブロック）によっては、見守り活動をするサポーターの人数が少なく、見守りを希望する人がいても活動できない、またはローテーションが組めない

➔ **人材確保のための継続的なオレンジサポーターの養成**
認知症サポーター養成講座との連携

③ サポーターの周知不足

見守り活動を提案した際に、サポーターのことを知らない地域住民は受け入れを躊躇したり、ヘルパーと誤解。

➔ **住民へのオレンジサポーターの周知**

第7期計画の策定

第7期計画（案）

基本理念 「住み慣れた地域でいきいきと輝きながら暮らせる安心社会の実現」

- 基本方針
- 1 地域包括ケアシステム構築に向けた地域共生社会の推進
 - 2 認知症高齢者等にやさしい地域づくりの推進
 - 3 制度の持続可能性を考慮した質の高い介護サービスの推進

新オレンジプラン

- I 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
- II 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供
- III 若年性認知症施策の強化
- IV 認知症の人の介護者への支援
- V 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
- VI 認知症の予防法等の研究開発及びその成果の普及の推進
- VII 認知症の人やその家族の視点の重視

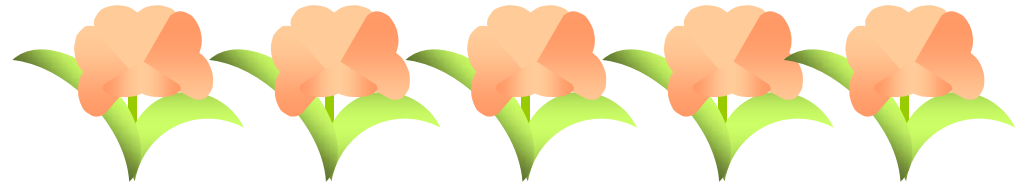
V-④安全確保
…見守り活動

土台は普及・啓発

↓
地域住民の意識や
見守る力が向上

↓
自分たちができる
ことから取り組む！





ご清聴ありがとうございました

